

蜜蜂と遠雷

恩田陸

幻冬舎

この本は日本で行なわれる、国際ピアノコンクールが舞台になっています。

主な登場人物は4人。表舞台から姿を消していた、かつての神童、栄伝亜夜。アマチュアレベルのお父さん高島明石。ピアノ界の若きスター、マサル・カルロス・レヴィ・アトール。クラシックピアノ界の巨匠からの推薦証もある、風間鹿。私は、この本を読み、クラシックピアノの曲をいくつか聴いてみました。そうしたら、知らない曲ばかりでおどろきました。けれども、作曲家には何人が知ってる人がいて、親近感がわき、もっと聴いてみたいと思います。

そしてこの本は、クラシックピアノの曲に私を結び付けてくれただけではなく、コンクールを動かすことの大変さ、審査員の人達のことなどについてもふれていて、いろんな人が支えてくれているからこそ、コンテストが輝けるんだなと、あらためて、裏方の人達のありがたさも分かりました。舞台は優雅に見えても、衣装の用意や練習など、彼らはピアノのために、何をいくつ犠牲にしてきたのだろうか。スポットライトを照らされていない暗い部分を知らせてくれたなと思いました。

亜夜ちゃん達は、自分の手に耳に何を感じて、今ピアノを続けているのだろうか。亜夜ちゃんも実際には居ないが毎日毎日ピアノの前ですわり、譜面を何度も、何度もさらっていく人達は、居ると思っ、その子達は、小さいころから、ピアニストになりたくて、将来の夢を決めているのかと知りたいです。私は将来はなになにを志すまいかと悩んでいる。神童と呼ばれる同じ位の子は、ピアニストになるのだと決めている。好きなこと、自信のあることなら、将来の夢を決めてしまえるのかと思っ、からさる。

新型コロナウイルスのため学校が休校になってしまい、長いと思っ、読んでいながらこの本を手にとりました。本は現実とは別の楽しい世界に連れていってくれます。なので、旧作と本を読み続けたい日もありました。私にとってこの休校中は本の必要性を感じた重要な時間、だったのかなと思いました。本は私に楽しい、悲しい、おもしろい世界に過去、未来と連れていってくれる新幹線の様な存在です！



こんな本読みました

国分寺市はらば文庫6年 小坂由羽